

広島空港特定運営事業等 2023年度事業計画



広島国際空港株式会社

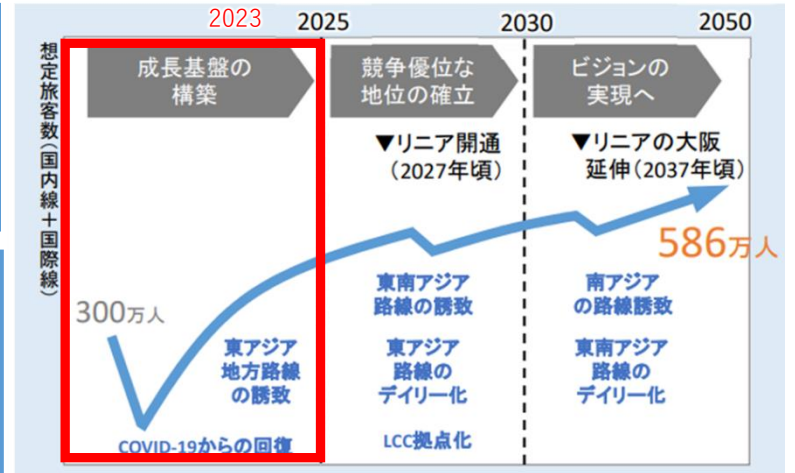
2023年度方針

事業期間終了時 (2050年度) におけるビジョン

中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ
 広島空港を「あらゆる旅行者に最も選ばれる玄関口」へ、
 中四国を「世界に選ばれる目的地」へ

中期計画 (-2025年度)

- ✓ 30年間の将来成長を確かなものとするために、COVID-19による航空需要の一時的蒸発から速やかに立て直し
- ✓ 2030年頃に見込まれる関空・福岡の容量拡大、リニア開業等の外部環境の変化を勘案し、当初5年間を最重要期間として注力



2023年度方針

- ・ コロナ禍以前の航空需要への早期回復に向けて、既存路線の維持・拡大に取り組みつつ、運休路線の再開と新規路線の開設に繋げる。
- ・ 就航地との関係を更に深め、ビジネス・観光需要をインバウンド・アウトバウンド双方から掘り起こす。
- ・ 需要の回復・拡大に備えた人員確保等受入体制の整備と、成長の基盤となる設備投資を着実に推進していく。
- ・ G7広島サミットの受入を成功させ、安全・安心を守る体制を更に強化する。

■ 旅客数・貨物量目標

		2023年度
旅客数 (万人)	国内線	266
	国際線	17
貨物量(千t)		12

■ 投資計画

(億円)

	2023年度	投資内容
運営権設定施設	0.4	航空灯火LED化等
非運営権設定施設	29.3	旅客ターミナルビル増築・改修、レンタカーステーション整備等
投資合計	29.7	

具体的施策

航空 ネットワーク

- 運休路線の再開と再開後の定着を着実に進めることに加え、マーケティングの支援やインセンティブ制度の活用、空港間連携の強化により新規路線の誘致を加速させる。
- 運航再開・新規就航の機会を逃さないためにグランドハンドリングのリソース不足解消を徹底的にサポートする。
- 貨物地区の再整備も含めた貨物事業の戦略を立案する。

交通 アクセス

- カーブサイド改修に向けた計画の策定と、レンタカーステーションを開設する。
- 広島空港経由の高速バス路線の実現による交通拠点化を推進する。
- オンデマンド交通、貨客混載バスの新交通モードを具現化する。
- 立体駐車場を含めた「空港駐車場」の新料金、新サービスでの運用を開始する。

空港施設等の 運用

- 航空需要の拡大を見据え、旅客ターミナルビルの増築・改修を着実に遂行する。
- 2024年度に予定するPSFC（旅客サービス施設使用料）導入に向け検討、準備を進める。
- 商業エリアのリニューアル計画を策定するとともに、免税売店をはじめとした各種施設の新たな顧客ニーズを捉え、快適性を向上させ収益拡大に繋げる。
- PPA方式による太陽光発電の運用を開始し、空港の脱炭素化を推進する。
- DX施策により航空便と交通アクセスの接続性の向上など交通拠点化を進め、旅客の利便性向上を図る。

地域連携 ・地域共生

- 地元経済界やサポーターズクラブ会員企業等との連携を活かすとともに、就航地の関係機関との連携を深め各路線に応じたビジネス・観光需要を掘り起こすことにより、航空需要の拡大に繋げる。
- 空港全体を巻き込んだCS・ESの体制を整備し、満足度向上に向けた各種活動を推進する。
- 新たなモビリティの導入を目指す等、空港周辺施設の回遊性を高めるとともに、イベント等の継続開催を通じて臨空エリアのにぎわい創出を図る。

安全・安心

- G7広島サミットの成功を支えるため、関係者と連携しセキュリティを更に強化する。
- 空港内事業者や外部関係者と共同で、安全に関する教育や多面的な訓練を継続的に実施することで、安全意識の醸成及び非常時の実効性を向上させる。
- エアサイドの適切な設備更新及び修繕を実施する。

旅客ターミナルビル拡張計画



* イメージ